

第32回ICA円卓会議 in エジンバラ

小川 千代子

(国際資料研究所、国際交流委員会副委員長)

毎年、各国の国立文書館長と全国アーキビスト団体の代表が集まる専門家会議、ICA円卓会議が、今年は英国エジンバラのニューパーラメントハウスを会場に、9月22～27日の6日間の日程で開催された。今回の参加者は170名という空前の大人数を集めた。中国の参加者は5名で、登録参加者数ではイギリスに次いだ。日本からは国立公文書館の2名と、全史料協代表の小川千代子が参加した。

話題は冷戦後時代のヨーロッパにおけるアーカイブをめぐる諸問題

今回の会議テーマは「文書館史料の閲覧：その法的側面を考える」、3日間5セッション、報告者は合計26名と質量ともに盛り沢山であった。特に、今回のテーマにからめて世界レベルでの文書館史料の現地保存主義の問題が色濃く影を落としていたのは、印象深い。世界レベルの現地保存主義と過去の戦争や紛争に由来する史料の移動と所有権の問題などであり、これはほぼ同様の議論が10月に日本で開催された

EASTICAでも繰り返されたことが記憶に新しい。このような問題が浮上したのは理由として、冷戦後の世界に国境が次第に変化の勢を増していることがあげられよう。東ヨーロッパなどに見られるように、冷戦時代には論じられることのなかった過去の国境や民族の移動と紛争が一般的な議論の対象になってきたのである。したがって、そうした過去の歴史的事実にまつわる記録の移動と所有権の問題が、今日改めて「専門的」に論じることができるという環境が整いつつあるということをここで見る事ができた。

他方、占領や植民地支配は第2次世界大戦でもう金輪際おしまいだと思っていた筆者にとって、今回のICA円卓会議の成り行きはショッキングでさえあった。世界のあちこちで民族紛争、戦争は今も続いている。そして、記録の保存と利用への影響は永く影を落とし続けることを知らされたのであった。

ICAの方向性

報告者の顔ぶれの大半は白人で、黒人や黄色人種、いわゆる発展途上国からの発表者は3名、アジア太平洋地域代表として議長団に属したのはフランス系白人など、これまでにない白人主導型の構造が感じられた。最終日に提示された決議案文がヨーロッパ覇権主義の色彩が強かつ

たため、決議案検討の議論はこれまでになく緊迫した。とくに、非白人サイドからは、いささか感情的とも感じられる反対意見が強く出され、筆者のこれまで10年ほどのICAとのかかわりのなかでも最も厳しいやり取りであった。「ICAもつまるところ人種問題が最大のネックだ」と、89年マドリッドの円卓会議で出会ったマレーシアの友が囁いていた言葉が、脳裏に鮮やかによみがえってきた。

ICA/SPA—専門家団体部会の総会

会議終盤の9月26日午後には、全史料協もメンバーとなっているICA/SPA専門家団体部会の年一回の総会が開催された。このICA/SPAでは、各国の文書館動向について、アーキビスト団体の立場から発表する機会がある。全史料協も、昨年のICA北京大会以来の活動の成果や国内のさまざまな動向をとりまとめて発表する機会を得て、アーキビストの倫理綱領の邦訳出版物のこと、同じく倫理綱領邦訳が、小林年春氏が開設しているホームページ、「日本のアーキビスト (Archivists in Japan)」にも掲載されていること、日本初の文書館用語集の刊行がまもなく実現するなど、世界に誇るべき成果を報告した。日本から発信する情報の大半が日本語であるため、日本語を知らない諸外国のアーキビストには読んで貰えない。ここところが、癢の種である。世界を相手にする場合、コトバのハードルは、なかなか簡単には越えられない。せめてインターネットにのせる日本語を一部画像処理でのせてみてはどうか、とヨーロッパの朋友のアドバイスがあった。

今後の予定

1998年のICA円卓会議は予定通りスウェーデンで開催されるが、99年の開催地はジャカルタからハンガリーのブダペストに変更された。2001年のICA円卓会議はイスラエルの予定。また、2000年に開催される次のICA大会は、スペイン国立文書局と会場となるセビリヤのアーキビストの手で着々とその準備が進められていることも、報告があった。

余談

今回は会議プログラムとは別に日本の参加者3名で夕食を共にし、また揃ってスコットランド国立図書館文書部を見学する機会があった。和やかに日本人同志の交流の機会がもてたので、これは遠い外国の地でのなによりも楽しい思い出となった。

だが、アジア地域からの参加は、日本、中国、スリランカ、マレーシア、ベトナムの5か国11名で、欧米諸国はもとより、アフリカ、中南米からの参加者(国)数に比べても、アジアからの参加は少なく、ICA会長の王剛氏の役割も、なぜか目だたなかった。アジアの同胞の一人として、王剛氏のICA会長としての一層の活躍を期待したい。